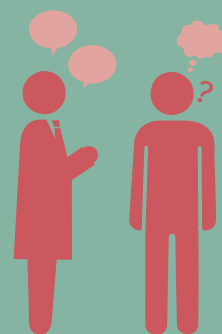


発達障害 × 慢性疾患



発達障害，プライマリ・ケア医はどうかかわるべきか？

「発達障害」という言葉は一般にも広く浸透し、インターネットや書店にも関連情報があふれている。医療現場でも、精神科や心療内科を標榜していなくとも発達の問題を抱えた子どもや大人を診療することは日常的だろう。診断済のケースや、本人・家族が発達障害を疑っているようなケースだけでなく、むしろ糖尿病などの慢性疾患診療がうまくいかない、患者との関係性に難しさを感じる、などありふれた「なんかうまくいかないな」の背景に発達障害が関与しているケースも珍しくないとされる。

一方で、発達障害に関して体系的に学ぶ機会に恵まれていたり、気軽に相談できる専門家が身近にいるプライマリ・ケア医はなかなかいないだろう。筆者が所属する日本プライマリ・ケア連合学会は「メンタルヘルス領域の教育」を重点強化課題の1つに掲げている。これは、プライマリ・ケアにおいてメンタルヘルス診療の重要性は高いにもかかわらず、教育リソースが限られている現状を反映している。本特集はこの現状を踏まえて、多くのプライマリ・ケア医が自信をもって診療しているといえない発達障害診療の、かゆいところに手を延ばすことを目指している。

本特集の前半では「発達障害×慢性疾患」のさまざまな組み合わせごとに、具体的な治療計画の立て方・説明のコツ・患者とのつきあい方を実践的にまとめ、説明例もご紹介いただいた。また、全体を通して発達障害自体への理解をさまざまな角度から深める章立てに工夫されている。

若手医師に留まらず、患者を紹介できる施設が近くになく、試行錯誤しながら診療にあたっているすべての医療者の後押しができる特集となることを期待している。

聖マリアンナ医科大学／川崎市立多摩病院 総合診療内科
日本プライマリ・ケア連合学会 メンタルヘルス委員会

家 研也

Neurodevelopmental Disorders は、日本精神神経学会 精神科用語検討委員会によって「障害」という表現は避け「神経発達症群」という訳語が発表されているが、プライマリ・ケア領域にまだ馴染んでいない現状を踏まえ、多くの読者に届くことを願って企画の表題は発達障害として、項目内の用語は各著者の記載のままにしている。